

音訳ボランティア養成講座

音訳ボランティア養成講座を開催します。講師は先天性の視覚障害者で、NHK・Eテレなどで解説放送のナレーターを務める一方、音訳ボランティアの養成や高校放送部の指導などにあたっている安田知博さんです。

- **日程** 全5回
①8月8日(水) ②8月29日(水)
③9月12日(水) ④9月19日(水)
⑤10月10日(水)
- **時間** 10:00～12:00(9:45受付開始)
- **場所** 向日市福祉会館3階 大会議室
- **対象** 向日市在住または在勤・在学の方
- **講師** フリーアナウンサー
音訳指導者 安田知博さん
- **費用** 無料
- **申込期間** 8月3日(金)までに下記までお電話にてお申込みください。
- **申込先** 向日市社会福祉協議会
地域福祉課 TEL.932-1961
(土・日曜日、祝日を除く午前8:30～17:00)
- **共催** 向日市社協ボランティアセンター、向日市音訳サークル「愛フレンド」



昨年の講座風景

【お申し込み】地域福祉課
TEL.932-1961

くらしの資金(夏期)のお知らせ

疾病や失業等により、一時的にお金のやりくりが困ったり、緊急に資金を必要とする世帯のために「くらしの資金」の相談を受けます。

- **受付期間**
7月2日(月)～7月13日(金)
9:00～16:00(土日を除く)

◎要予約

- **貸付限度額**
1世帯あたり10万円以内
- 【お問い合わせ】地域福祉課
TEL.932-1961

まごころ見守り定期便の紹介

京滋ヤクルト販売株式会社の協力を得て、ひとり暮らしの高齢者の見守りに取り組んでいます。定期に行う訪問では、早期にご利用者様の変化に気づくなどの成果を得ております。



LINE@
登録を
お願いします

向日市社会福祉協議会では、コミュニケーションアプリ「LINE@」で、皆様のお役に立つ情報や楽しい企画などを配信しています。LINEアプリを起動して「公式アカウント」画面から、「向日市社会福祉協議会」で検索して登録していただけます。友だち登録をお待ちしています。

友だち登録方法 / 次のいずれかの方法で、かんたんに友だち登録ができます。

その1 QRコードから

LINEアプリを起動して「友だち追加」画面から、「QRコード」を選択。以下のQRコードを読み込んで登録いただけます。



その2 友だち検索から

LINEアプリを起動して「公式アカウント」画面から、「向日市社会福祉協議会」で検索して登録していただけます。



平成30年3月号の答え「親指姫」

- ①木の長さ②蝶③ツバメのくちばし④親指姫の髪型
- ⑤雲の形⑥花の数⑦雉しべの形

- **対象者** 向日市内に住所を有する満75歳以上のひとり暮らしで介護保険等の生活支援サービスを利用していない方
- **その他** 訪問時(週1回)にお届けする飲料には自己負担金が必要です

【お問い合わせ】地域福祉課
TEL.932-1961

善意のご寄付
ありがとうございました

(平成30年2月23日～平成30年5月22日)

乙訓面白い社会づくり運動の会	10,000円
シンボクラブ	50,000円
京都府グランドゴルフ協会山城北ブロック	1,800円
イオンリテール株式会社	36,400円

ボランティア募金箱設置協力店

京都トヨタ自動車株式会社桂川西店 / タックメイト万源 / キッチンタロー / 野村龍酒店 / 中国料理ほあんほあん / 神崎屋 / はなこ / カレー工房ギャー / 向陽ゴルフセンター / なかの食品 / ライフシティ東向日 / オカダ酒店 / 福祉会館

24,610円の募金が集まりました。ありがとうございました。

7つのまちがい探し 「ブレーメンのおんがくたい」 グリム童話

「ブレーメンのおんがくたい」はグリム童話のひとつ。ロバ、犬、猫の上に鶏がのって盗賊を追い出すお話。



*応募方法

はがき又はFAXに、①回答②氏名③住所④年齢⑤今回号で特に関心があった記事(複数回答可)⑥「福祉パレット」を読まれた感想を書いてお送りください。正解者の中から抽選で5名に図書カードをプレゼントします。

*締め切り 平成30年8月17日(金)まで必着

*送り先 〒617-0002

向日市寺戸町西野辺1-7
向日市福祉会館内 総務課
FAX.933-4425

福祉パレット

ご近所福祉のまち 向日市をめざして

障がい者の仲間づくり 広がれ「ボッチャ」の輪!

重度の障がいがある人のスポーツ「ボッチャ」を通して、障がい者の仲間づくりや地域交流などを目的とした「ボッチャチャレンジ」を3月24日、向日市民体育館で行いました。障がい者の団体事業所、企業ら11団体がコラボしたイベントで、61人20チームが交流試合に挑戦。ミリ単位の攻防が繰り広げられ、参加者からは「面白かった」「次が楽しみ」との感想が寄せられました。今年度も開催予定。ぜひみなさんもご参加ください!

ボッチャとは ジャックボール(目的球)と呼ばれる白いボールに向かって、赤と青のそれぞれ6球ずつ投げあい、相手よりどれだけ多くのボールを近づけられるかを競う対戦型の競技。ボッチャは、さまざまな戦術を駆使する“頭脳戦”と言われ、夏季パラリンピックでは人気競技のひとつです。



アンケート結果からみる おとうさんの子育て

積極的に育児に関わる「イクメン」が増えてきた昨今。社協では昨年12月、父親の子育てを応援する事業「イクメンLIFE」をイオンモール京都桂川で開きました。そこで、子育て中の親を対象にアンケートを実施し、育児の課題や配偶者への要望等を調査しました。その結果、子育てに関する“男女の認識の違い”が明らかになりました。今回はその一部をデータを交えてご紹介します。パパ、ママそれぞれの意見を参考に、子育ての在り方を考えるきっかけになればと思います。



ウォーキングで健康増進！ シンポクラブ

高齢者を対象にした講座の受講者OBを母体に、平成3年に結成された「シンポクラブ」。主な活動内容は“歴史探訪を兼ねたウォーキング”で、100名を優に超える会員数を誇ります。多くの人を魅了する会の取り組みをご紹介します。

無理なく歩いて、健康維持と仲間づくり

京都近郊の名所などを巡りながら歩く定例会は、真夏の8月を除いて毎月実施しています。昨年度は嵐山や琵琶湖



竹の径を歩く

畔などを散策しました。また、毎年12月に1泊2日のバスツアーも企画。会員同士の交流を深めています。メンバーのひとり、顧問の小林登美路さんは、「参加するたびに印をつけた地図は、もう真っ黒！」と笑います。「それでも知らない場所がまだまだある。だから毎回楽しみにしているんですよ」と教えてくれました。

みなさん健脚ですが、事前に役員の方が入念にコースの下見を行い、歩く距離は4～7km程度と無理のない行程を組んでいるのも人気の秘訣です。また、さまざまな地域のメンバーが参加しており、仲間が増えるのも大きな魅力。脱会された人と付き合いを続けている人も多く、人生に彩を与えているといいます。

現在のクラブの登録者は145人で、多いときは300人以上いた時代もあったそうです。そのうち、定例会には毎回8割強が参加しているといい、いかに多くの方が楽しみにしているかがわかります。ちなみに、大正15年生まれのメンバーも元気に参加されているそうです。

「今日も歩いてありがとう、の精神です！」。取材時の活動内容をお話されるみなさんのイキイキとした表情が、会の雰囲気をも物語っているようです。

メンバーは随時募集中

対象：向日市在住の健康な60歳以上の男女
会費：入会費 1,000円/年会費 1,000円
例会の交通費や拝観料などは実費

お問合せ：事務局の島弘安さんまで TEL.921-9779

シンポクラブでは定例会時に、「今日も歩いてありがとう」の感謝の気持ちを込めて、「愛の募金」を行っています。1年間で積み立てた募金は、これまで震災や台風などによる被災地への義援金や、社協などへの寄付金として贈られています。

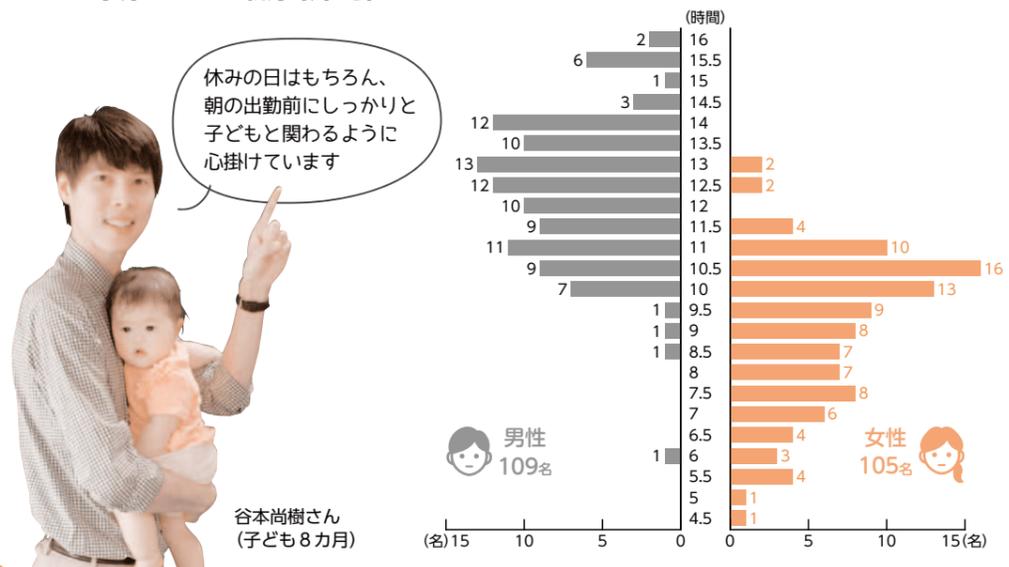
シンポクラブのみなさん

社協担当者の声

ご寄付いただきありがとうございます。皆さんの善意を福祉の推進に役立てたいと思います。

就労時間について…出勤から帰宅までの時間

平均時間は、男性が12時間22分、女性が8時間51分と約3時間半の差があります。この数字から、女性のほうが子育てのために就労時間を調整していることがわかります。

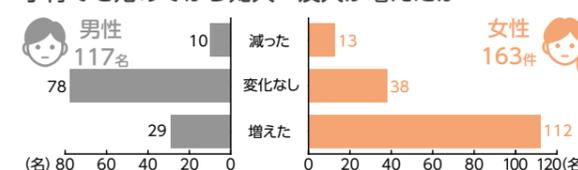


知人・友人について…子育てを始めてからの増減と知り合った場所

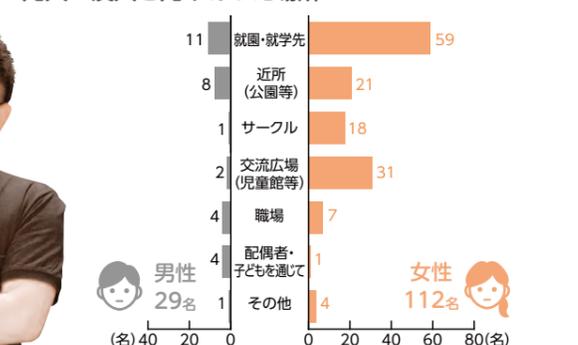
「知人・友人」の増減については男女とも「増えた」が「減った」より多く、子育てが交友関係を広げるきっかけに。ただし「増えた」が多い女性と異なり男性は「変化なし」が最多です。「増えた」と回答した男性は「就園・就学先」「職場」といった受動的な関係、女性は「近所」「サークル」「交流広場」といった能動的な関係が多くなっています。

子どもが一緒ならイベントにも積極的に参加します
パパ同士の改まった交流は照れくさい
松田忠さん (子ども3歳と11カ月)

子育てを始めてから知人・友人が増えたか

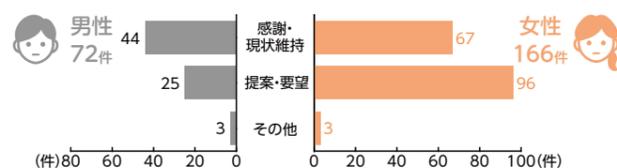


知人・友人と知りあった場所



子育てに関して配偶者に期待や要望、理解してほしいこと等

男女とも「感謝・現状維持」に一定の回答がありましたが、女性側では「提案・要望等」の占める割合が大きくなっています。「提案・要望」で男性側は「自分のことも理解してほしい」という声が多く、女性側は「もっと」「もう少し」といった言葉が目立つなど、双方の認識にズレが生じているようです。



男性の提案・要望

- 仕事の状況を理解してほしい
- 子育てができない、わからない気持ちを理解してほしい
- あまり怒らないでほしい 等

女性の提案・要望

- 家事をもう少し手伝ってほしい
- もっと子どもと遊んだり、接してほしい
- もう少し仕事から早く帰ってきてほしい 等

困った時に助けてくれるおじいちゃんやおばあちゃんに感謝しています



京都府乙訓保健所福祉室

副室長 水野 又啓さん(児童福祉司)

向日市は阪急やJRといった公共交通機関があり、京都市内や大阪府にも通勤しやすい地域です。工場跡地にマンションが建ち、若いファミリー層が増えています。社会的背景もあって共働き家庭が多く、昨今では育児に関わりたという意欲が高い父親が増えています。

その一方で、「どう子どもに接していいかわからない」という人も多いたが実情です。一般的に男性は悩みを他人に相談しないとされています。とくに子育てに関しては、この男性特有の心理が強く働き、「妻に言われて」「自分の買い物のついでに」といった“理由”が必要な父親もいます。今後は、こうした特徴をふまえたうえで、父親の社会参加のきっかけづくりになるようなイベントや講座の開催、思いを相談できる場の提供などに力を入れていくことが大事になると思います。